



OPTEX

2024年12月期 決算説明資料

オプテックスグループ株式会社

証券コード6914

2025年2月14日

<免責事項>

本資料に記載しております、オプテックスグループ株式会社の業績、戦略、事業計画等の将来予測を示す記述については、発表時点で入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が記述されている将来予測とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

1. 2024年度 決算概要

2. 2025年度 業績予想

3. 3カ年（2025-27年）の経営計画

2024年度 決算のポイント

売上高は、主力事業の堅調推移及び為替効果により、前年度比+12%の増収。

SS事業：**防犯関連は、国内外の重要施設向けソリューション販売が堅調。**
(センシング
ソリューション)

社会・環境関連は、国内および米国で車両検知センサーの販売が好調。

IA事業：**FA関連は、欧州での在庫調整や中国の設備投資需要減速で低調。**
(インダストリアル
オートメーション)

MVL関連は、EV関連堅調の一方で、半導体・電子部品向けが伸び悩み。
(マシンビジョンライティング)

MECT関連の二次電池製造装置の納品が順調に推移。
(メカトロニクス)

営業利益は、増収によりコスト増加を吸収し、前年度比+21%の増益。

相対的に原価率が高いMECT関連の売上構成比が増加したこと等により、
(メカトロニクス)

売上原価率が0.6ポイント上昇。為替影響および人件費増加で販管費が増加したものの、主力事業の増収効果等により、販管費率は1.5ポイント低減。

2024年度 連結決算 総括

経営成績 (単位:百万円)		2023年度 実績	2024年度 実績	対前年度 増減額	対前年度 増減率
売上高		56,372	63,269	+6,897	+12.2%
営業利益 (営業利益率)		5,899 (10.5%)	7,121 (11.2%)	+1,222	+20.7%
経常利益		6,258	7,749	+1,491	+23.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益		4,608	5,689	+1,081	+23.5%
1株当たり 当期純利益 (円)		129.73	159.86		
為替レート (円)	1USD	140.56	151.58		
	1EUR	152.00	163.95		

2024年度 連結決算 セグメント別 売上高・営業利益

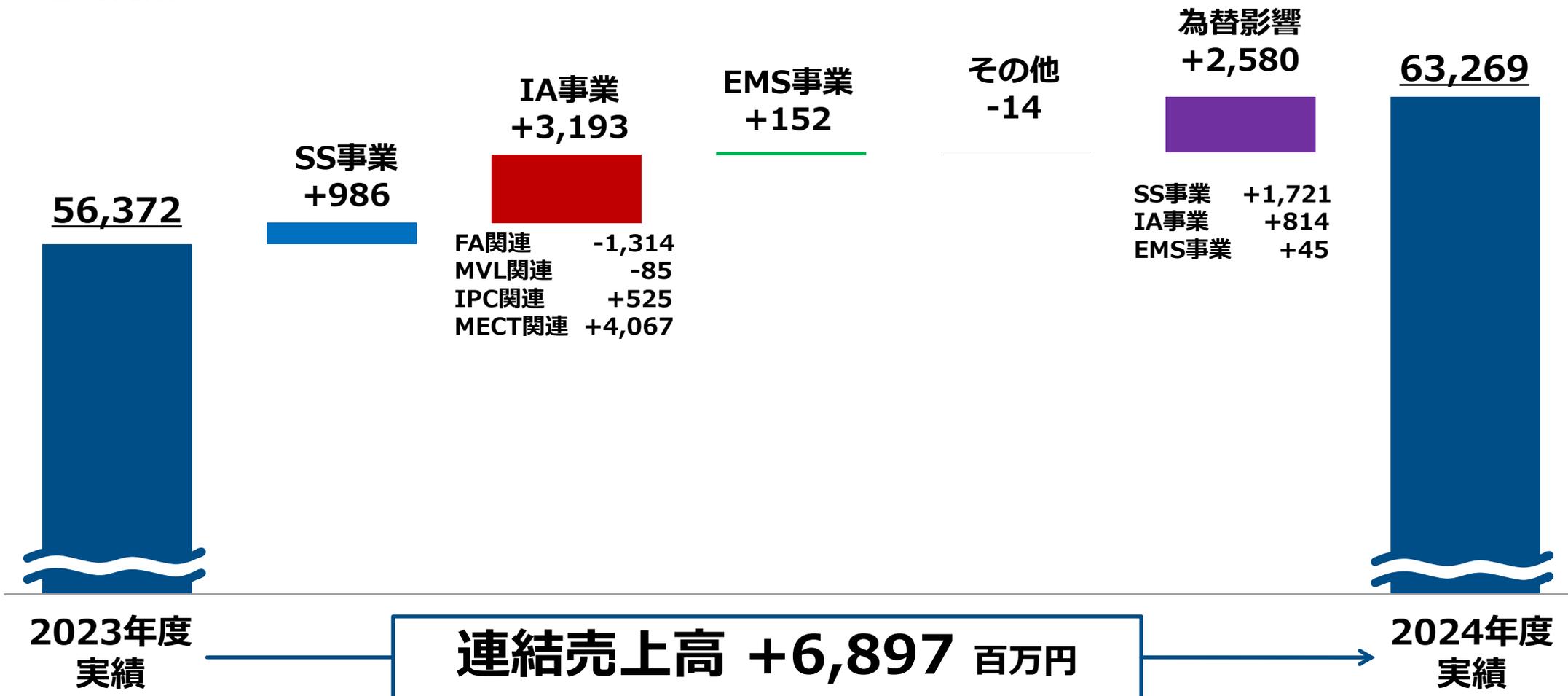
経営成績 (単位:百万円)	2023年度 実績		2024年度 実績			
	売上高	営業利益 (営業利益率)	売上高	対前年度 増減率	営業利益 (営業利益率)	対前年度 増減率
SS事業 (センシングソリューション)	25,197	3,186 (12.6%)	27,905	+10.7%	3,887 (13.9%)	+22.0%
IA事業 (インダストリアル オートメーション)	29,741	3,064 (10.3%)	33,748	+13.5%	3,764 (11.2%)	+22.8%
EMS事業	846	114	1,042	+23.1%	-120	—

※セグメント別の売上高は、セグメント間取引の売上高を消去した数値を表示しています。

※セグメント別の営業利益は、セグメント間取引の営業利益を含む数値を表示しています。

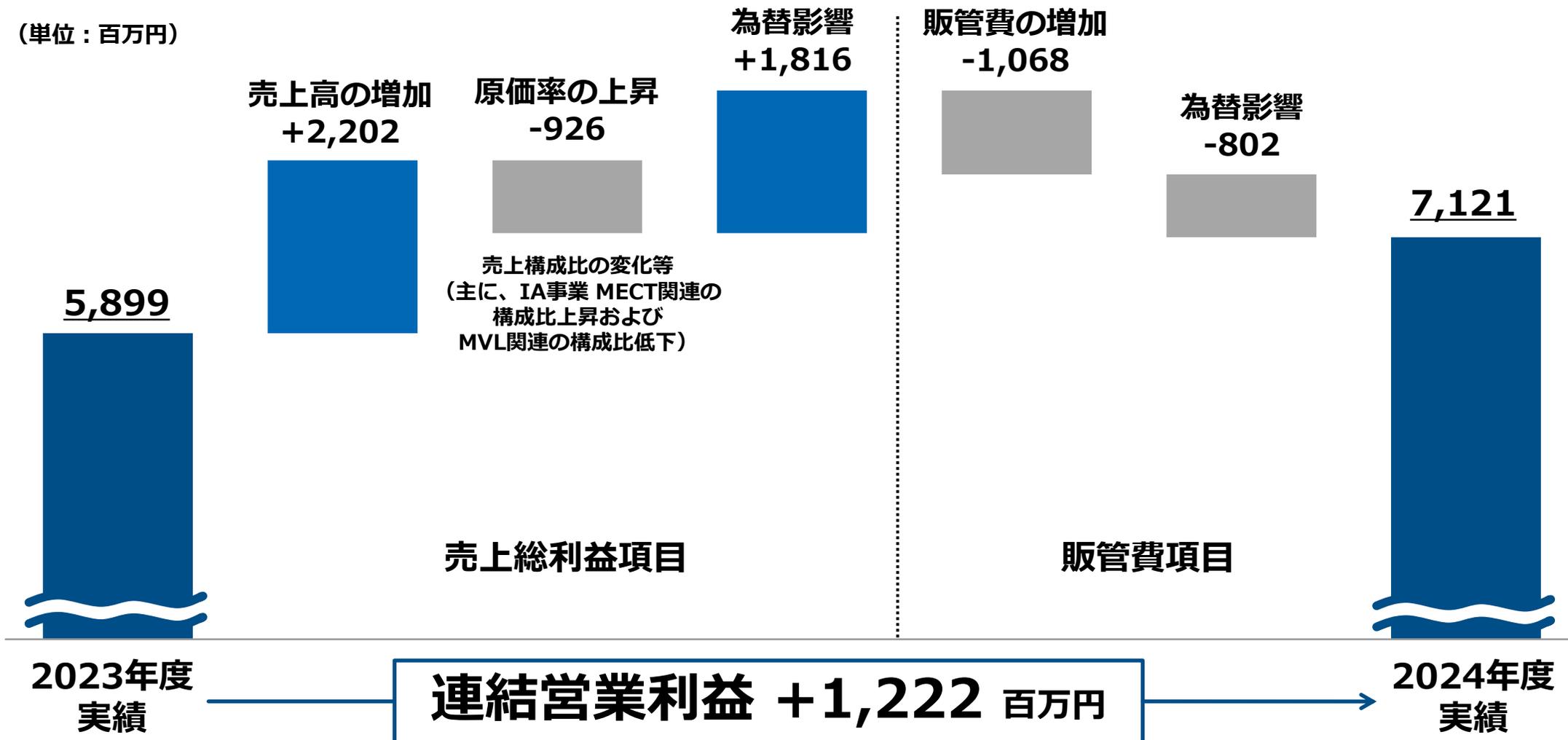
2024年度 連結売上高 増減要因（前年度比）

（単位：百万円）



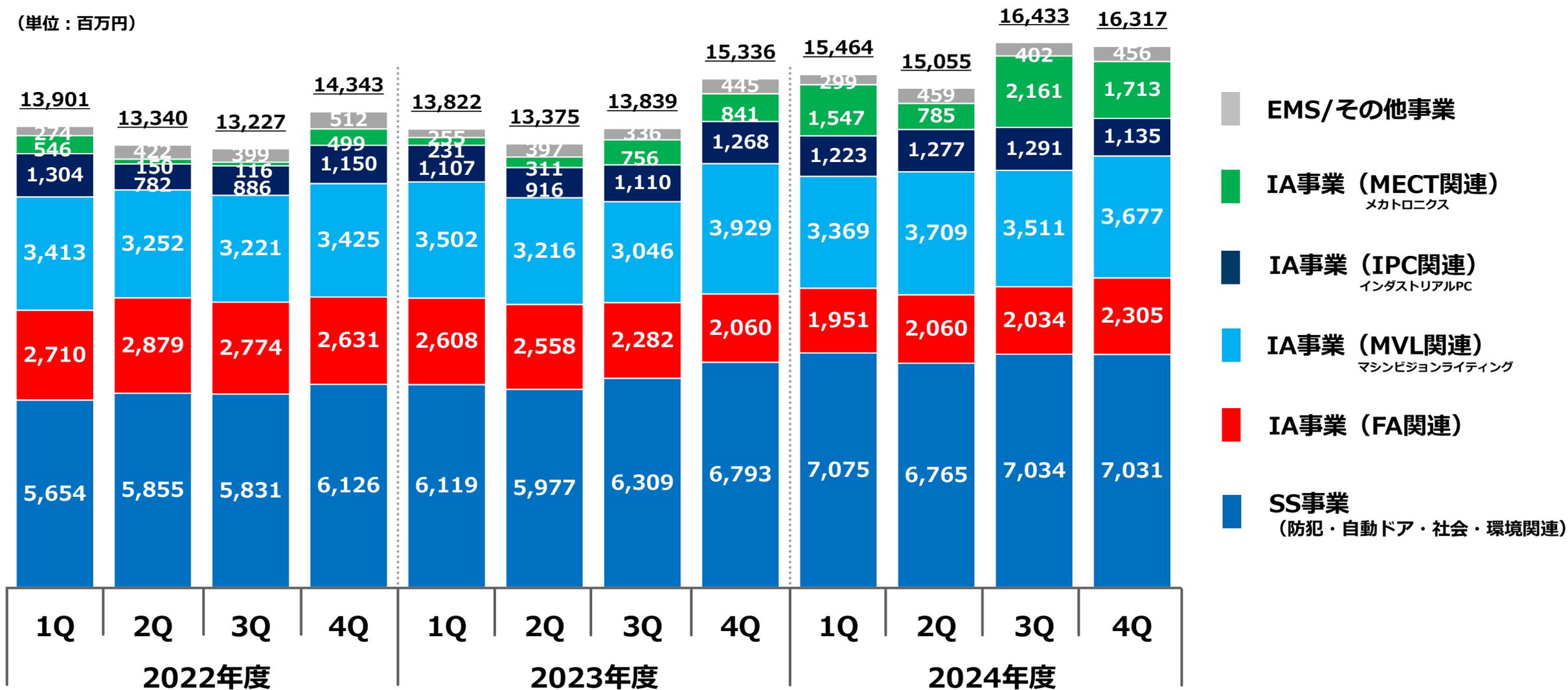
2024年度 営業利益 増減要因 (前年度比)

(単位：百万円)



連結売上高 四半期推移 (2022-2024年)

(単位：百万円)



セグメント・SS事業（防犯関連）

地域	2024年度 業績のポイント
日本	<ul style="list-style-type: none"> 大型重要施設向けのソリューション販売が堅調 警備会社向けの販売が伸び悩み
米州	<ul style="list-style-type: none"> データセンター等の重要施設向けでレーザー スキャンセンサーの販売が順調に推移
欧州	<ul style="list-style-type: none"> 欧州・中東地域でのダイレクトマーケティング 戦略推進により、インフラ施設やデータセンター 等へのソリューション販売が増加 住宅・商業施設向け侵入検知センサーの販売が 堅調
アジア	<ul style="list-style-type: none"> 豪州、タイ、インドで侵入検知センサーおよび 重要施設向けソリューション販売が堅調



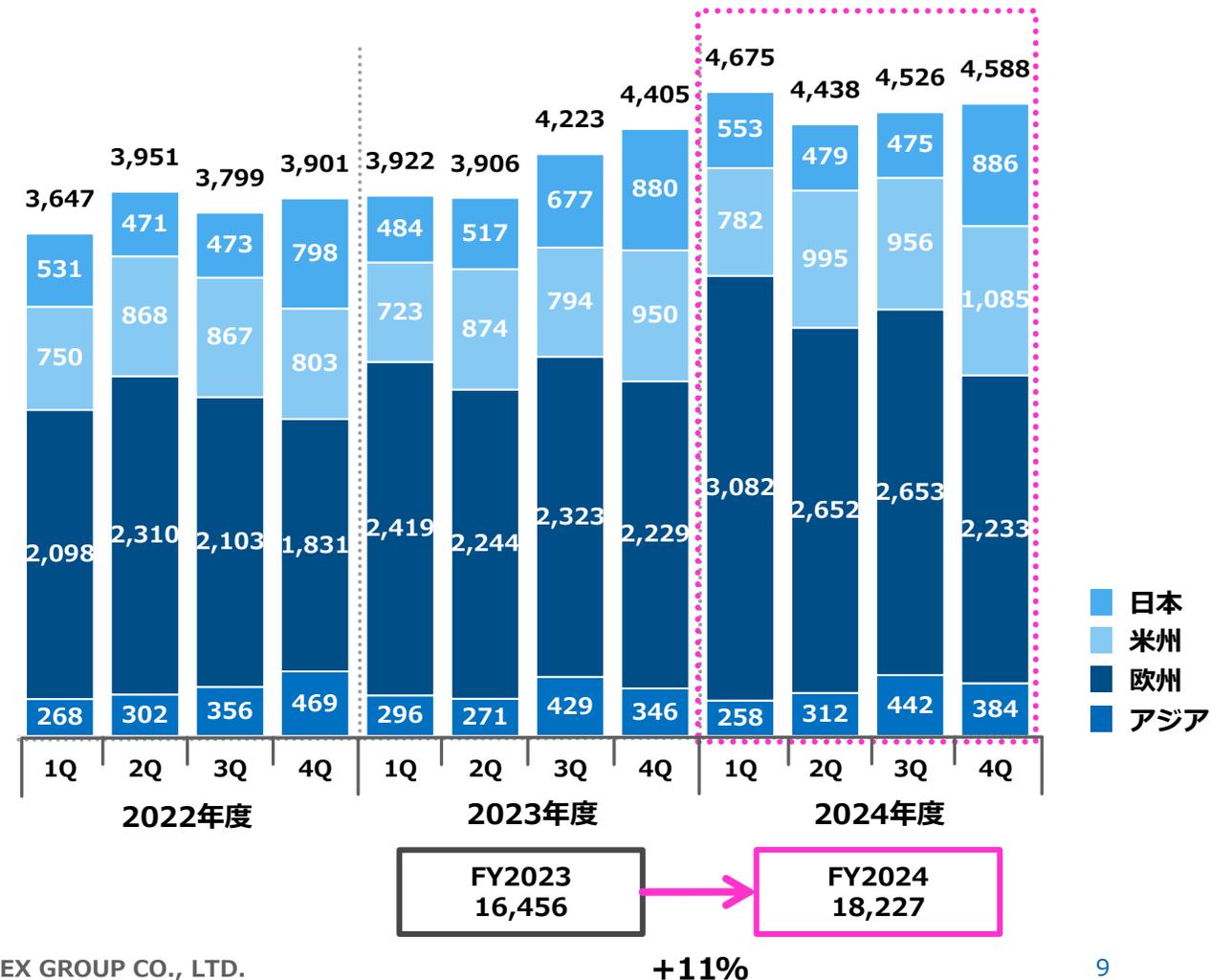
大型重要施設向け
レーザー スキャンセンサー



カメラ付きセンサー

地域別・四半期売上高（単位：百万円）

※SS事業内の区分変更により、2022年度、2023年度の数値を組み替えて表示しています。

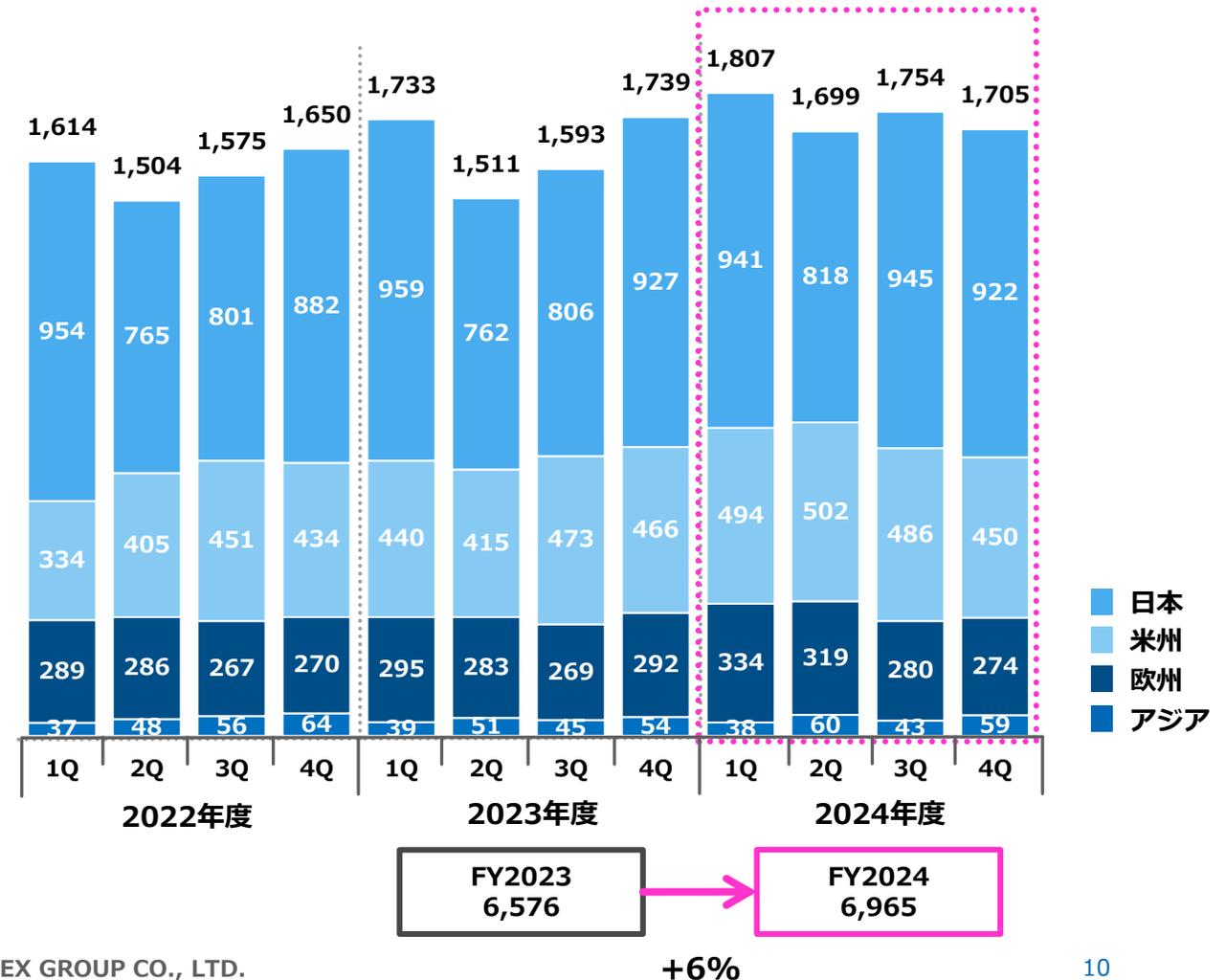


セグメント・SS事業（自動ドア関連）

地域	2024年度 業績のポイント
日本	<ul style="list-style-type: none"> 自動ドア用センサーの販売が前年並みで推移 客数情報カウントシステムの販売が順調
米州	<ul style="list-style-type: none"> 自動ドア用センサーおよびシャッター用センサーの販売が堅調に推移
欧州	<ul style="list-style-type: none"> 大手自動ドアメーカー向けの販売が前年並みで推移

地域別・四半期売上高（単位：百万円）

※SS事業内の区分変更により、2022年度、2023年度の数値を組み替えて表示しています。



自動ドア用センサー



タッチスイッチ



シャッター用センサー

セグメント・SS事業（社会・環境関連）

地域	2024年度 業績のポイント
日本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場向け車両検知センサーの販売が順調に推移 ・ 水質センサーおよびデータマネジメントサービスの販売が順調に推移
米州	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場のゲート開閉用途で車両検知センサーの販売が好調



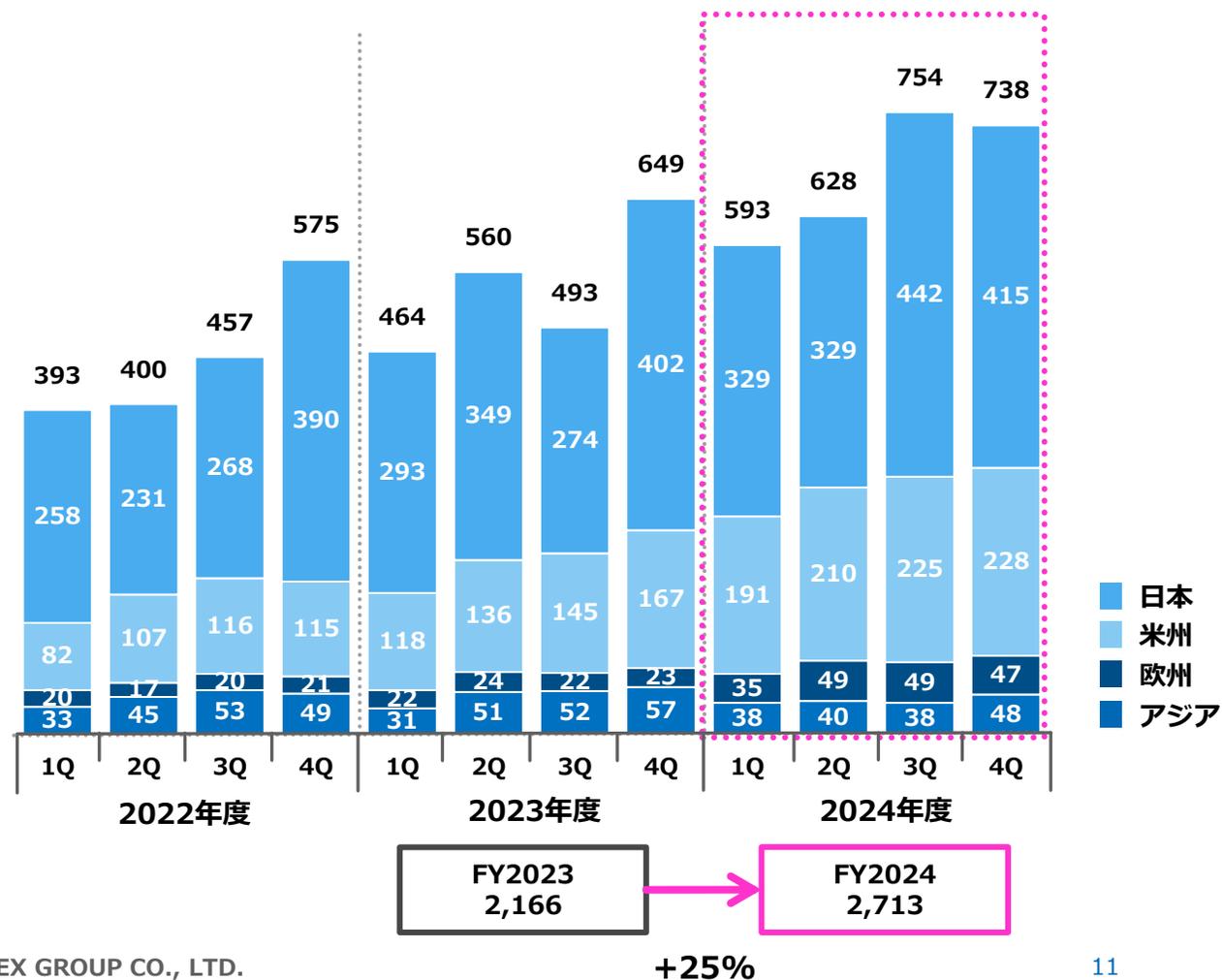
車両検知センサー



水質計測データ
マネジメントサービス

地域別・四半期売上高（単位：百万円）

※SS事業内の区分変更により、2022年度、2023年度の数値を組み替えて表示しています。



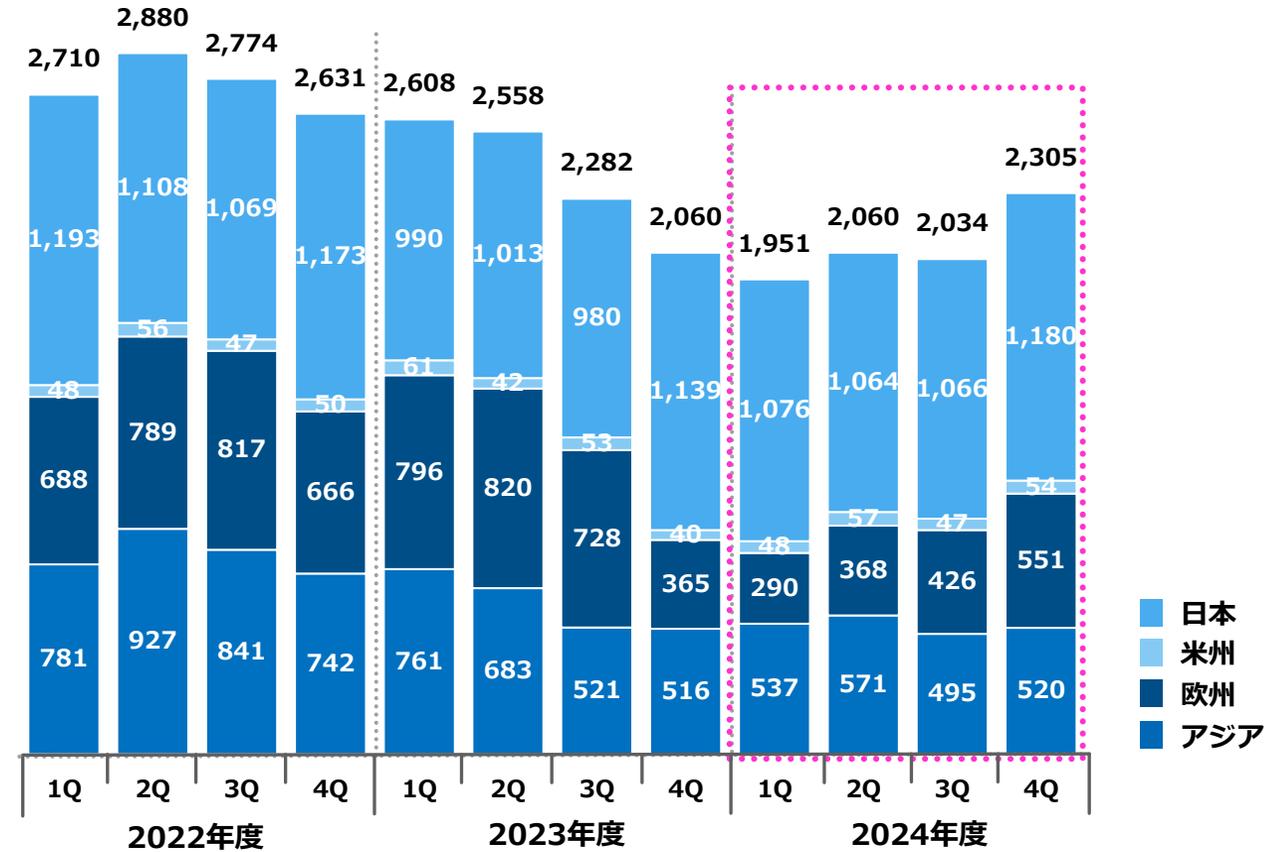
セグメント・IA事業 (FA関連)

ファクトリーオートメーション



地域	2024年度 業績のポイント
日本	・ 電子部品及び半導体関連向けの販売が堅調に推移
欧州	・ 設備投資需要の低迷により主要顧客の在庫調整が継続し、汎用・変位センサーの販売が低調
アジア	・ 中国の設備投資需要低迷の影響が継続し、変位センサーの販売が伸び悩む

地域別・四半期売上高 (単位: 百万円)



変位センサー



IO-Linkマスター

FY2023 9,508 → FY2024 8,350

-12%

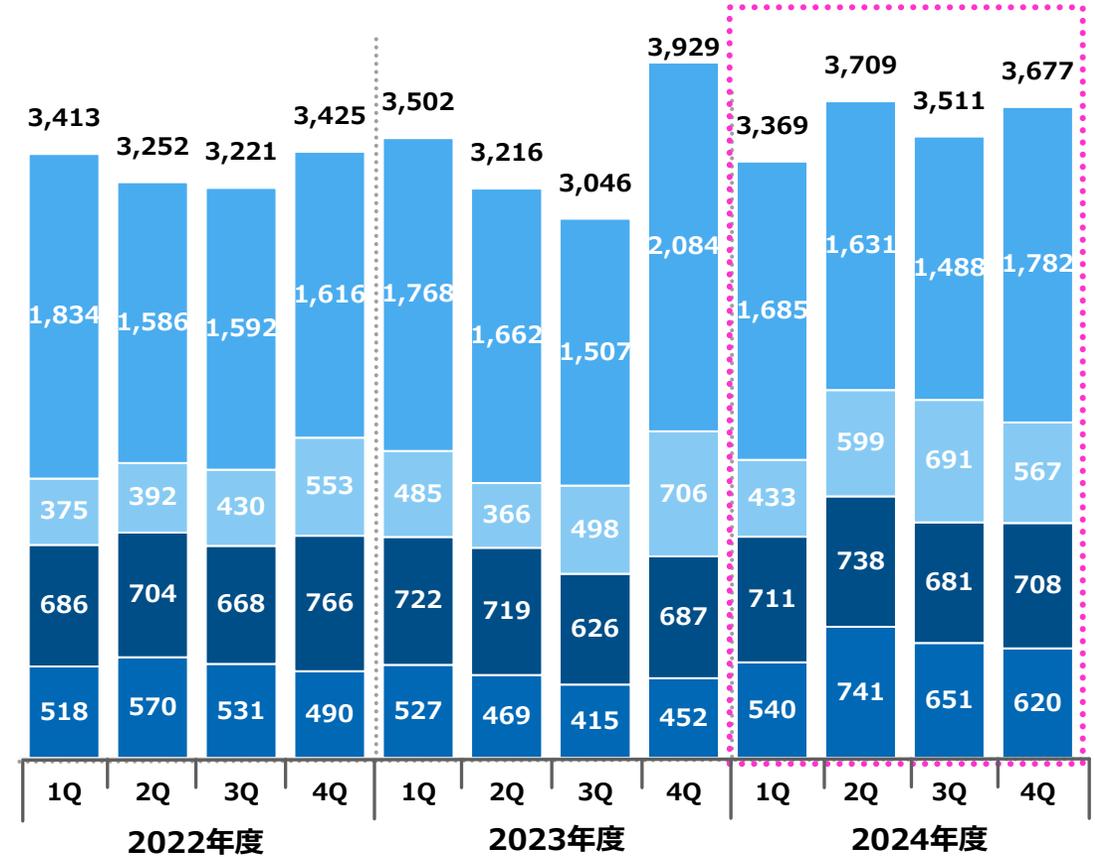


セグメント・IA事業 (MVL関連)

マシンビジョンライティング

地域	2024年度 業績のポイント
日本	・半導体・電子部品向けの販売は低調だが、EV関連業界向けの販売は堅調に推移
米州	・半導体・電子部品向けの販売は低調だが、物流業界向けの堅調推移と為替効果で増収
欧州	・半導体・電子部品向けの販売が低調だが、フランス子会社の物流向け販売が堅調に推移
アジア	・半導体関連向けに新製品の販売が堅調に推移

地域別・四半期売上高 (単位: 百万円)



画像検査用LED照明

FY2023 13,693 → FY2024 14,266

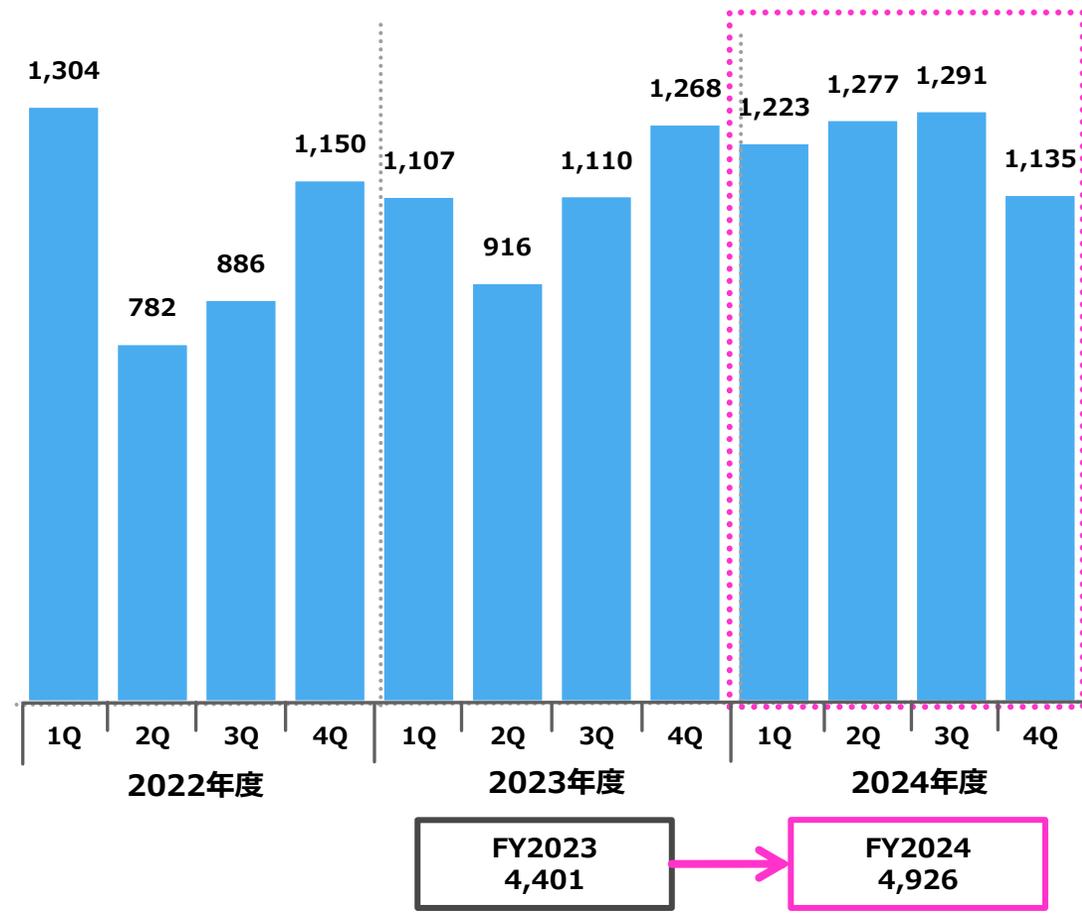
+4%

セグメント・IA事業 (IPC関連)

インダストリアルPC

地域	2024年度 業績のポイント
日本	・半導体製造装置向けを中心とした製品の販売が順調に推移

地域別・四半期売上高 (単位: 百万円)



産業用コンピュータ



追尾用カメラ

セグメント・IA事業 (MECT関連)

メカトロニクス



地域	2024年度 業績のポイント
日本	・ 二次電池製造装置の納入が順調に推移

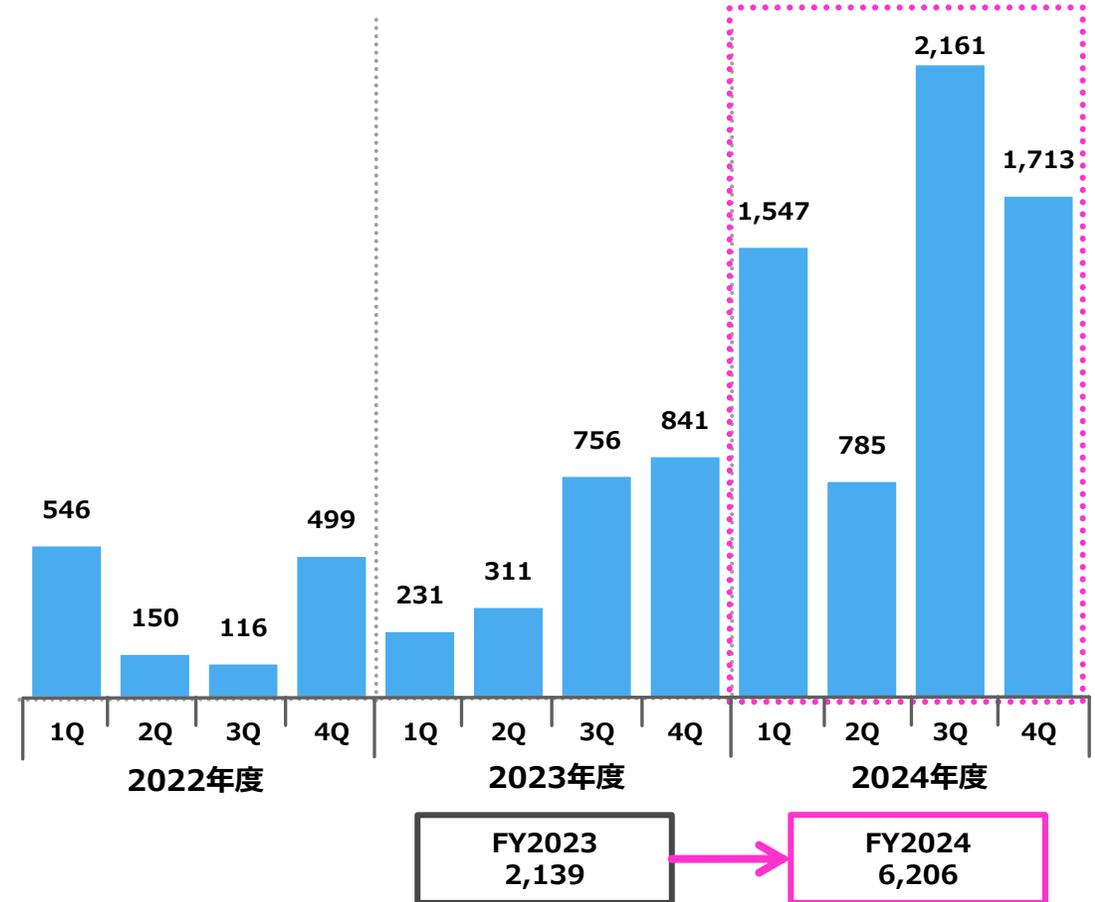
地域別・四半期売上高 (単位: 百万円)



電気自動車・ハイブリッド車向け
二次電池製造装置



画像処理検査装置



1. 2024年度 決算概要

2. 2025年度 業績予想

3. 3カ年（2025-27年）の経営計画

2025年度 事業環境認識

SS 事業	防犯	国内外でAI・データセンター、インフラ関連、防衛関連施設向けの設備投資計画が増加。大型重要施設向けソリューション販売を更に強化し継続需要を取り込む
	自動ドア	欧米市場を中心に安全対応・環境貢献製品の需要増加で堅調継続を見込む。国内市場も遠隔管理ニーズに対応した製品・システム拡充により堅調継続を見込む
	社会・環境	駐車場向け車両検知センサーの先進的企業としての地位を確立したことにより、国内外で好調継続を見込む

IA 事業	FA ファクトリーオートメーション	欧州の設備投資抑制による在庫調整は若干回復の一方、中国市場の低調は継続。国内の半導体・自動車関連の自動化・省人化需要による緩やかな回復を見込む
	MVL マシンビジョンライティング	半導体・電子部品等の微細化や検査工程の複雑化の進行を背景に設備投資需要が増加。プライベートショー開催等により、国内外でソリューション販売の拡大を見込む
	IPC インダストリアルPC	半導体製造装置向けは、在庫過剰により一時的に受注が落ちているが、下期以降の回復を見込む。SS事業（防犯関連）との共同開発製品の販売増加を予定
	MECT メカトロニクス	EV向け二次電池製造装置納入の売上継続を見込む

2025年度 通期連結業績予想

為替の円高予想と産業機器市場の回復遅延想定を織り込む。

SS事業の安定的な成長と、中長期での自動化・省人化ニーズの増大や検査工程の複雑化を背景に、IA事業のFAセンサー、画像検査用LED照明などで高収益製品の販売再強化を目指す。

(単位：百万円)	2024年度 通期実績	2025年度 通期予想	対前年度 増減率
売上高	63,269	66,000	+4.3%
営業利益 (営業利益率)	7,121 (11.3%)	7,400 (11.2%)	+3.9%
経常利益	7,749	7,400	-4.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,689	5,900	+3.7%
1株当たり当期純利益 (円)	159.86	165.76	

■ 為替レート

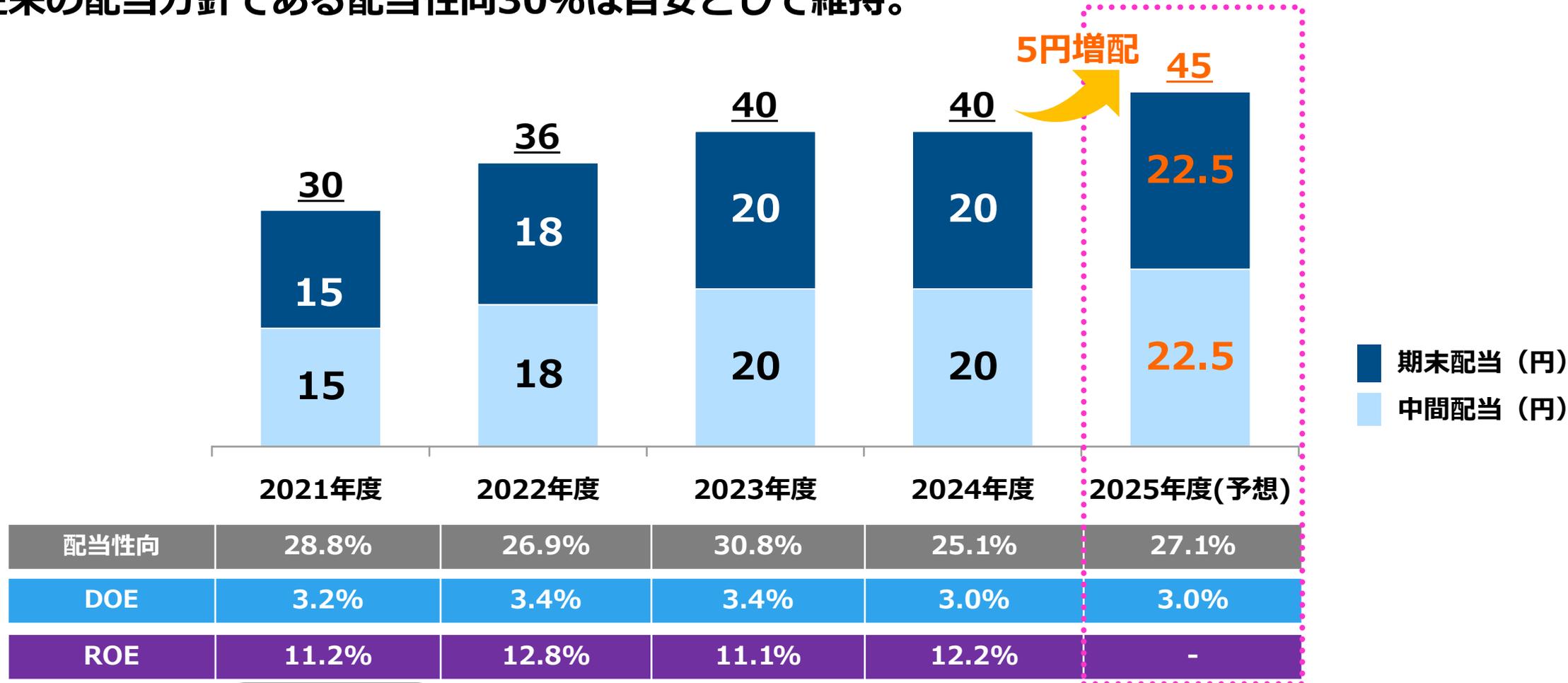
	2024年度 (実績)	2025年度 (想定)
1USD	151.58円	145.00円
1EUR	163.95円	155.00円

■ 為替感応度 (2025年度予想、1円変動による影響額)

	売上高	営業利益
USD1円相当	約200百万円	約80百万円

株主還元

2025年度より、安定的な配当実現に向け、DOE 3%の下限を設定する。
従来の配当方針である配当性向30%は目安として維持。



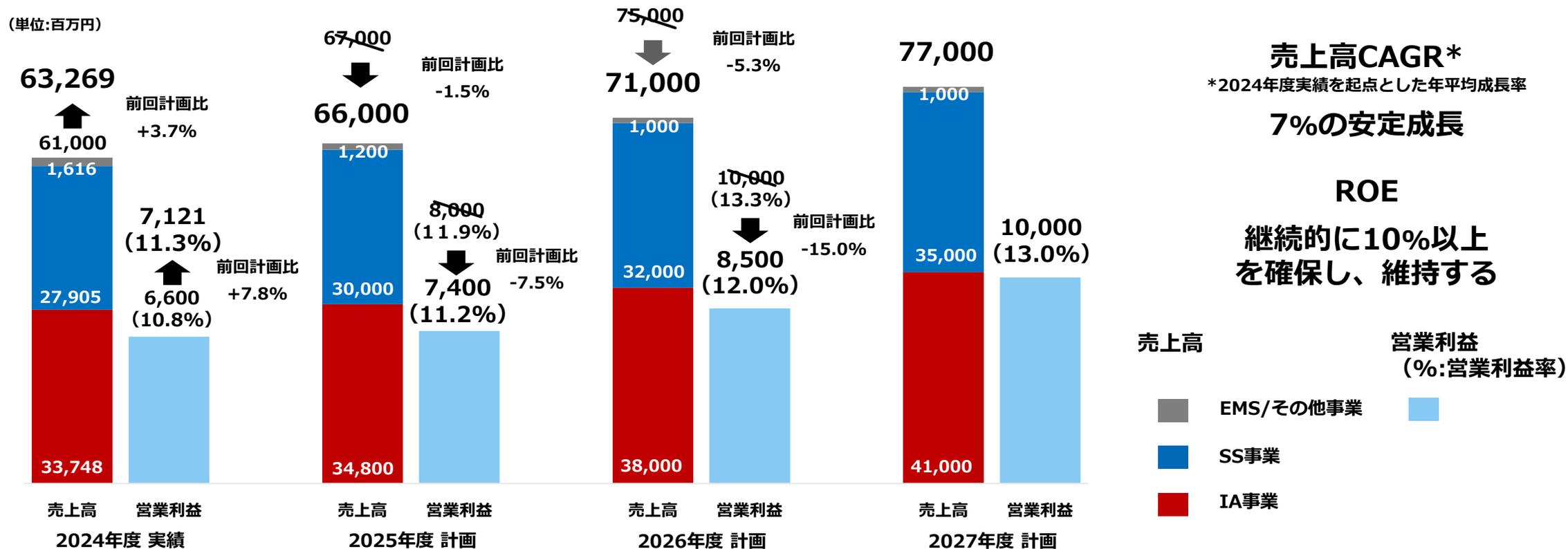
自己株式取得
10億円 (63万株)

1. 2024年度 決算概要
2. 2025年度 業績予想
3. 3カ年（2025-27年）の経営計画

3カ年（2025-27年）の経営計画

当社では、市場環境の急速な変化に柔軟に対応するために、毎期改定するローリング方式で3カ年の経営計画を発表しています。

顧客の設備投資需要は足元で緩やかに回復するも、IA事業 FA関連の欧州・アジア向けおよびMVL関連の半導体・電気・電子部品向けの先行きに不透明感が残ることから、慎重な見通しを織り込み、前回計画を修正する。2026年以降の回復を見据え、各事業において、ソリューション提案ビジネスへの移行を加速し、営業利益率の向上を図る。



ソリューション提案ビジネスの目標

従来型
(モノ売り視点) ▶

製品の販売
||
良い仕様
良い性能
良い品質

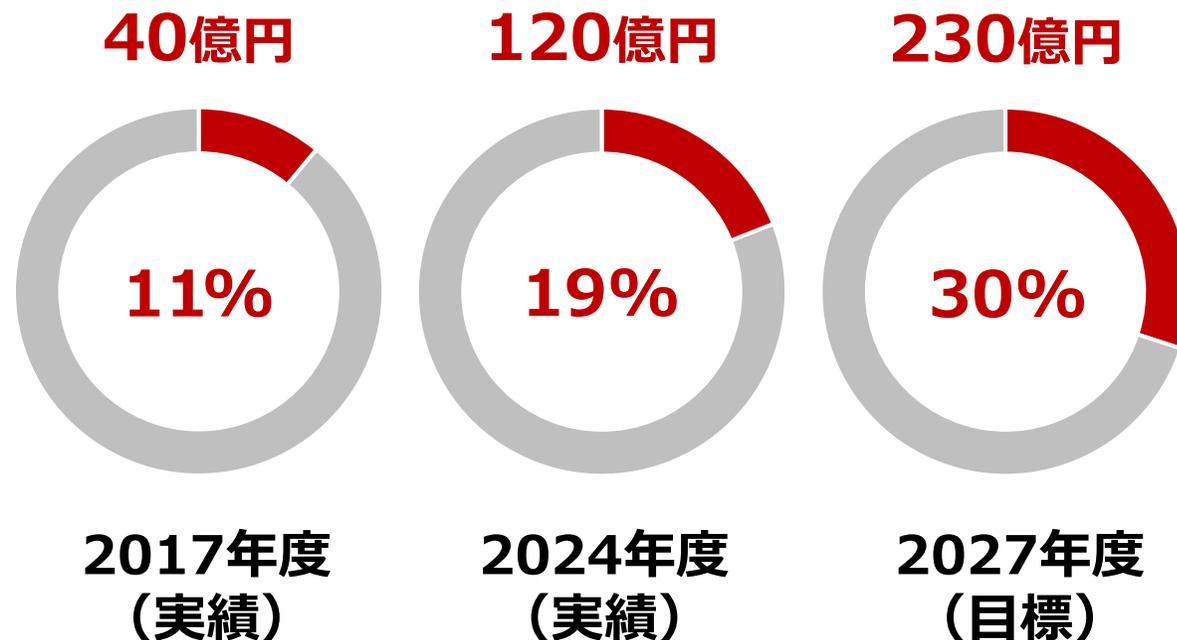


ソリューション提案型
(顧客の真の要望に
焦点を当てる)

製品
+
システム・セット
データ・サービスの
提供

- ✓ 付加価値の強化
- ✓ 収益性の向上
- ✓ 継続性の向上

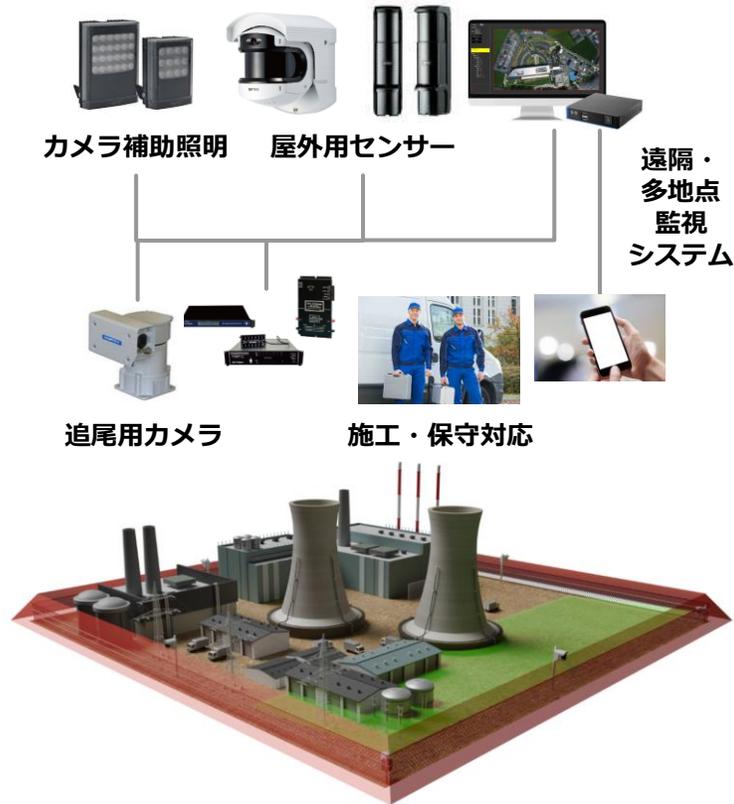
ソリューション提案ビジネスを加速させることで、
2027年度の連結売上高に占めるソリューション
提案型の売上比率を30%に引き上げる



ソリューション提案ビジネス～3つの事例

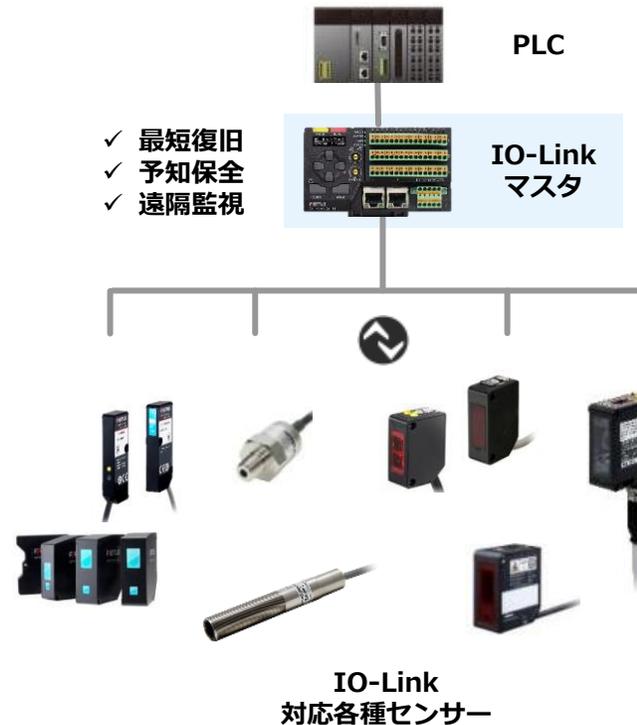
当社の強みを活かした高付加価値製品・システムの提供、拡販を更に強化していきます。

防犯センサービジネスでSI機能まで含めた一気通貫ソリューションを提供



※ SI : システムインテグレーション (System Integration) の略。防犯システムの設計・施工サポート、保守対応などを請け負う。

FAセンサービジネスで双方向データ交換ができるソリューションを提供



※ IO-Link : センサーと上位の制御システムとの間で各種データ交換を双方向で行える通信技術。

画像検査用照明ビジネスで「見える」×「出来る」を実現するソリューションを提供





参考資料

「資本コストや株価を意識した経営の実現」 に向けた当社の対応について

オプテックスグループの現状分析

収益性と成長期待を回復・上昇させることで市場評価を更に高めます。

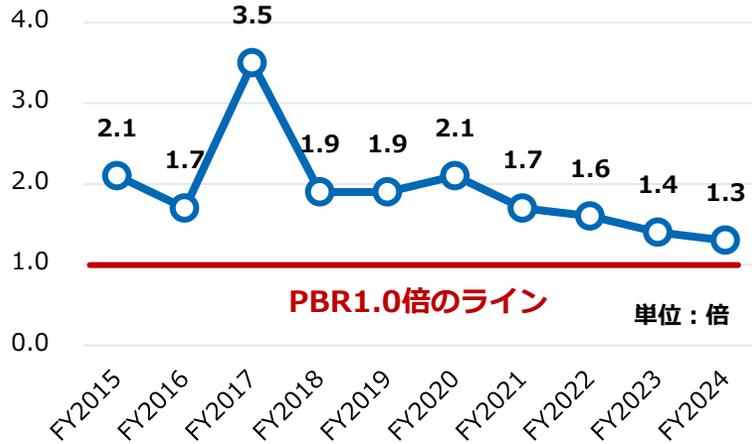
総合的な市場評価

PBR

株価純資産倍率

安定的に
1.0倍超の水準で推移

(PBRの推移)



収益性と資本効率の評価

ROE

自己資本利益率

コロナ禍以降は回復傾向

(ROEの推移)



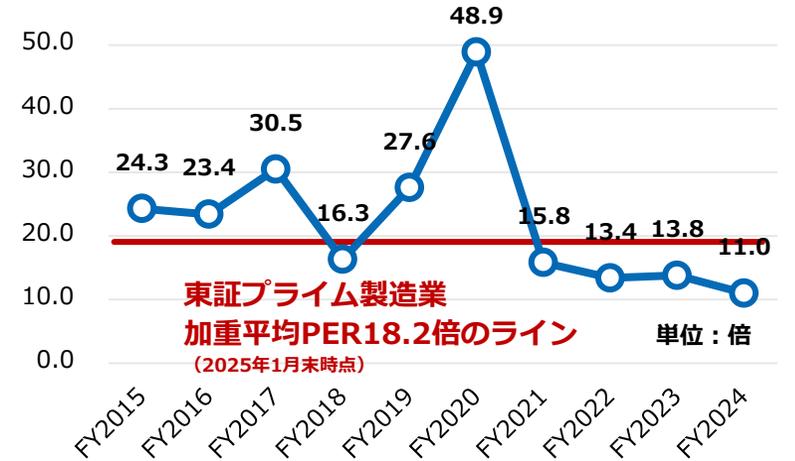
収益性と将来の成長期待の評価

PER

株価収益率

足元では
製造業平均PERを下回る

(PERの推移)



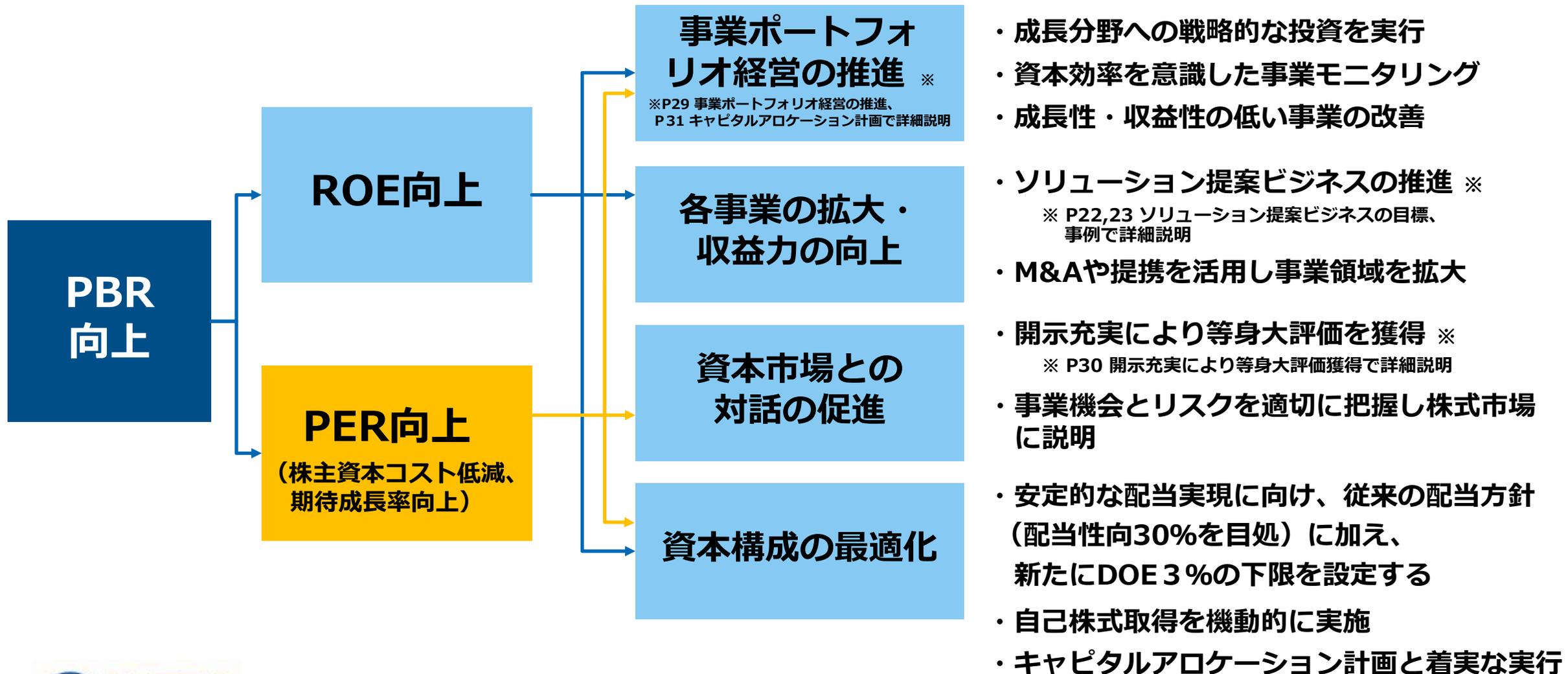
※CAPM (資本資産価格モデル) アプローチを用い推計

$$\begin{matrix} \text{リスクフリーレート} \\ \text{無リスク資産の利回り} \\ \text{(10年国債利回り基準)} \end{matrix} + \begin{matrix} \text{ベータ (}\beta\text{) 係数} \\ \text{当社株式の} \\ \text{固有リスク指標} \end{matrix} \times \begin{matrix} \text{市場リスクプレミアム} \\ \text{株式投資のリスク報酬} \end{matrix} = \begin{matrix} \text{株主資本コスト} \\ \text{8~9\%} \\ \text{(当社試算)} \end{matrix}$$



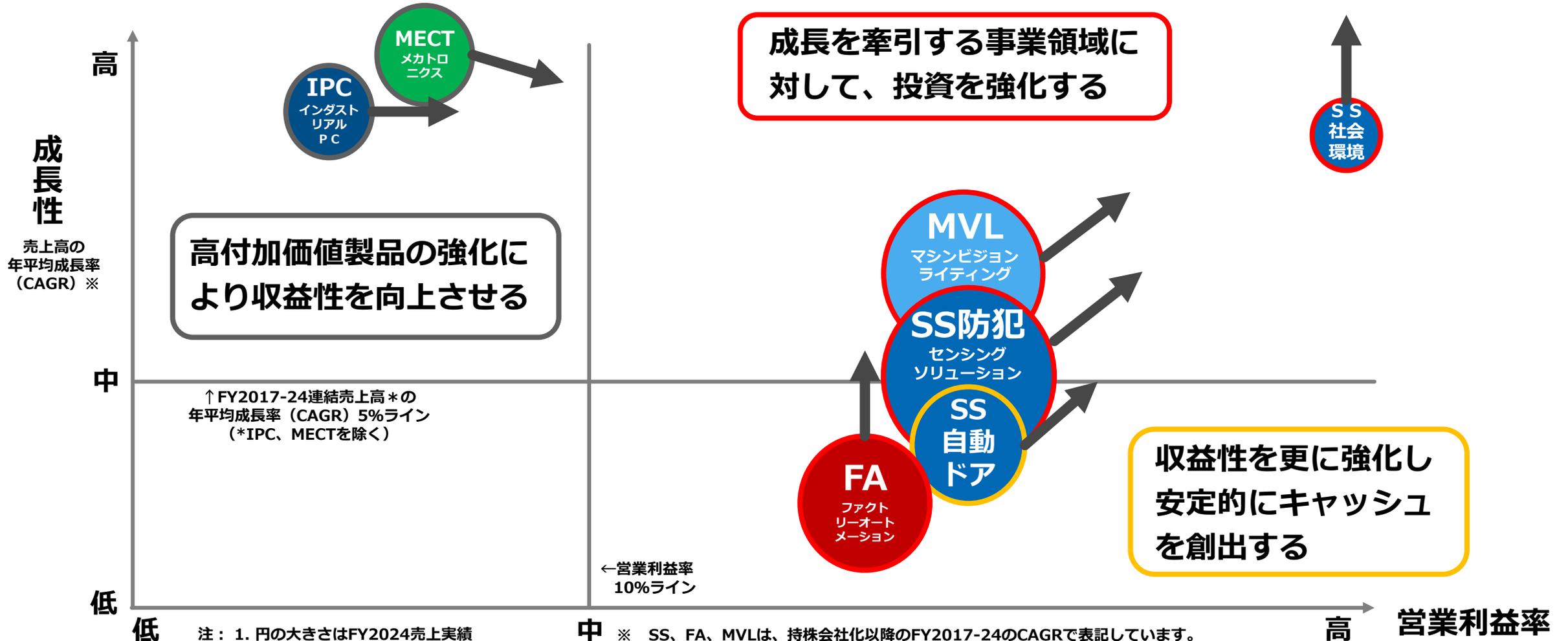
継続的な企業価値向上策

中長期的な企業価値向上に向け、収益力の向上及び成長期待の醸成に取り組んでまいります。



事業ポートフォリオ経営の推進

成長性と営業利益率の2つの観点から事業ポートフォリオを分析し、グループ全体の最適化を目指してポートフォリオ経営を強化いたします。



注： 1. 円の大きさはFY2024売上実績
2. 円の位置はFY2024実績 (CAGR、営業利益率)
3. 矢印の向きは3カ年経営計画に基づく長期成長イメージ

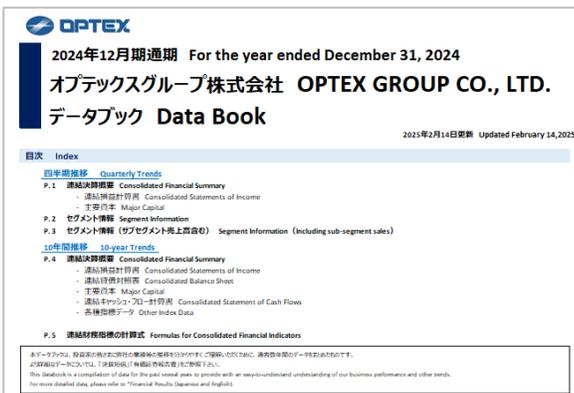
※ SS、FA、MVLは、持株会社化以降のFY2017-24のCAGRで表記しています。
IPC、MECTはそれぞれ連結子会社化以降のCAGRを以下の期間で表記しています。
IPC：FY2021-24 MECT：FY2022-24

開示充実により等身大評価を獲得

当社では、投資家との対話を通じて得た様々な意見を踏まえ、事業および業績動向をより把握しやすくするために、IR開示情報の充実と改善を進めてまいります。

ヒストリカルデータが欲しい。

2024年12月期通期決算より、
ウェブサイトにて「データブック」
を公開開始しました。



ウェブサイト(IRページ)を
使いやすくしてほしい。

2024年2月に、最新のIR資料を一括
ダウンロードできるなど、利便性の高い
レイアウトにアップデートしました。



↑クリックすると、ウェブサイトが開きます。

IA、MVL、IPC…
アルファベット表記の名称では
事業内容が想像しにくい。

2025年12月期 第1四半期より、
セグメント名称を変更します。

センシング事業
(現 SS事業)

産業機器事業
(現 IA事業)

防犯関連

自動ドア関連

社会・環境関連

FAセンサー関連 (現 FA関連)

画像処理用照明関連 (現 MVL関連)

産業用PC関連 (現 IPC関連)

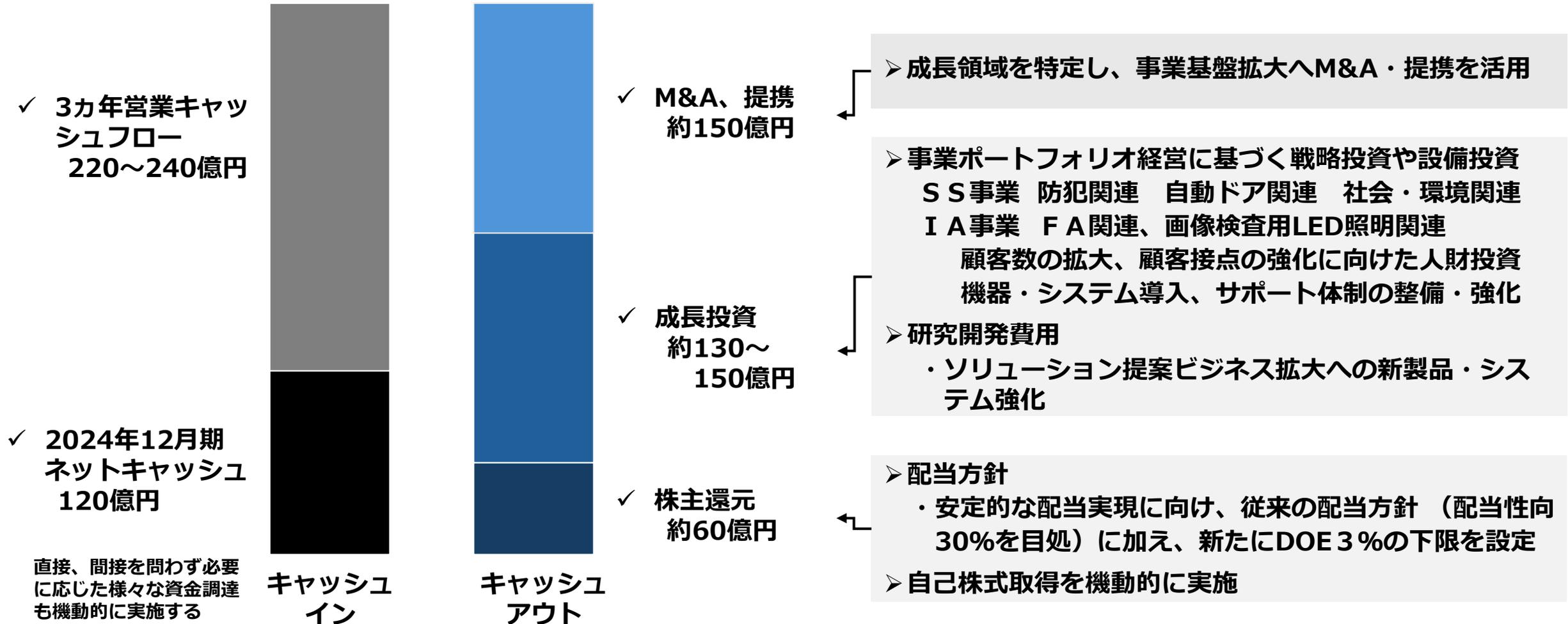
自動化装置関連 (現 MECT関連)

※上記の名称は仮称です。変更する可能性があります。

キャピタルアロケーション計画

キャピタルアロケーション方針（2025年12月期－2027年12月期 3カ年経営計画）

2027年12月期に連結営業利益100億円の達成を目指し、成長投資（M&A・提携含む）に優先的に配分します。





会社概要

会社概要

会社名	オプテックスグループ株式会社
所在地	滋賀県大津市
創立日	1979年5月25日
資本金	2,798百万円
売上高	63,269百万円
営業利益	7,121百万円
決算月	12月
証券コード	東京証券取引所 プライム上場 6914
連結従業員数	2,148名 (派遣・パート・アルバイト除く) 数値：2024年12月末時点

オプテックスグループは
センサーの総合メーカーです。

「見えないものを、見るしごと。」

【会社名の由来】

オプテックスグループ
OPTEX

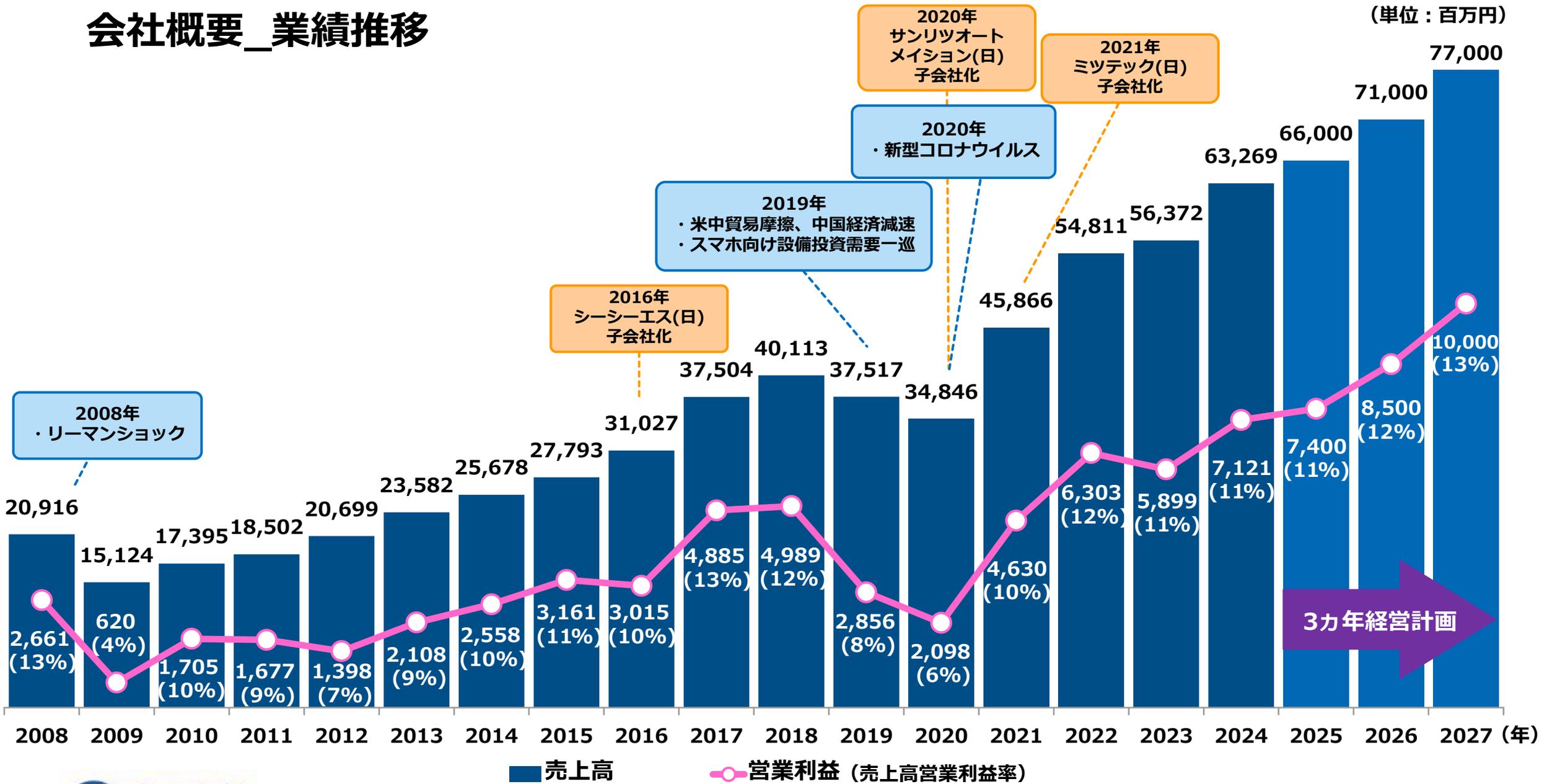
Optical TEchnology
光学技術

未知、未来を表す
X (エックス=ギリシャ語)



会社概要_業績推移

(単位：百万円)



2008年
・リーマンショック

2016年
シーシーエス(日)
子会社化

2019年
・米中貿易摩擦、中国経済減速
・スマホ向け設備投資需要一巡

2020年
サンリツオート
メイション(日)
子会社化

2020年
・新型コロナウイルス

2021年
ミツテック(日)
子会社化

3カ年経営計画



会社概要_沿革

1979	・ 創立
1980	・ 世界初、赤外線利用の自動ドア用センサーを開発
1985	・ 米国カリフォルニアに子会社を設立
1991	・ 店頭公開（旧JASDAQに相当）
1996	・ 屋外防犯用センサーを開発
2001	・ 東証二部上場
2002	・ オプテックス・エフエー株式会社を設立
2003	・ 東証一部上場
2005	・ 中国に自社工場を設立 ・ オプテックス・エフエー株式会社上場
2016	・ シーシーエス株式会社を子会社化（63.5%の株式を取得）
2017	・ オプテックス・エフエー株式会社を完全子会社化 ・ オプテックスグループ株式会社を持株会社とする新体制に移行
2020	・ サンリツオートメーション株式会社を子会社化
2021	・ ミツテック株式会社を子会社化



創立当時



自動ドア用センサー1号機



屋外防犯用センサー



オプテックス・エフエーが開発した工場用センサー



中国の自社工場（広東省東莞市）



シーシーエスの画像処理用LED照明

会社概要_体制図

SS事業 : Sensing Solution (センシングソリューション) 事業
IA事業 : Industrial Automation (インダストリアルオートメーション) 事業

オプテックスグループ 株式会社

(東証プライム上場 証券コード : 6914)

持株会社

オプテックス株式会社

防犯用・自動ドア用等各種センサーの開発・製造・販売

SS事業

オプテックス・エフエー株式会社

ファクトリーオートメーション用センサーの開発・製造・販売

IA事業

シーシーエス株式会社

画像処理用LED照明の開発・製造・販売

IA事業

サンリツオートメーション株式会社

産業用コンピュータの開発・製造・販売

IA事業

ミツテック株式会社

自動化設備および画像処理検査装置の開発・製造・販売

IA事業

オプテックス・エムエフジー株式会社

グループ製品の製造・電子機器の受託生産

EMS事業

オーパルオプテックス株式会社

アウトドアアクティビティおよび環境体験学習の運営

その他事業

会社概要_事業売上構成比

IA:インダストリアルオートメーション事業

MECT関連 (メカトロニクス)

自動車向けの二次電池製造装置を提供

IPC関連 (インダストリアルPC)

半導体製造装置向けの組込ボードや
空港向けの追尾カメラを提供

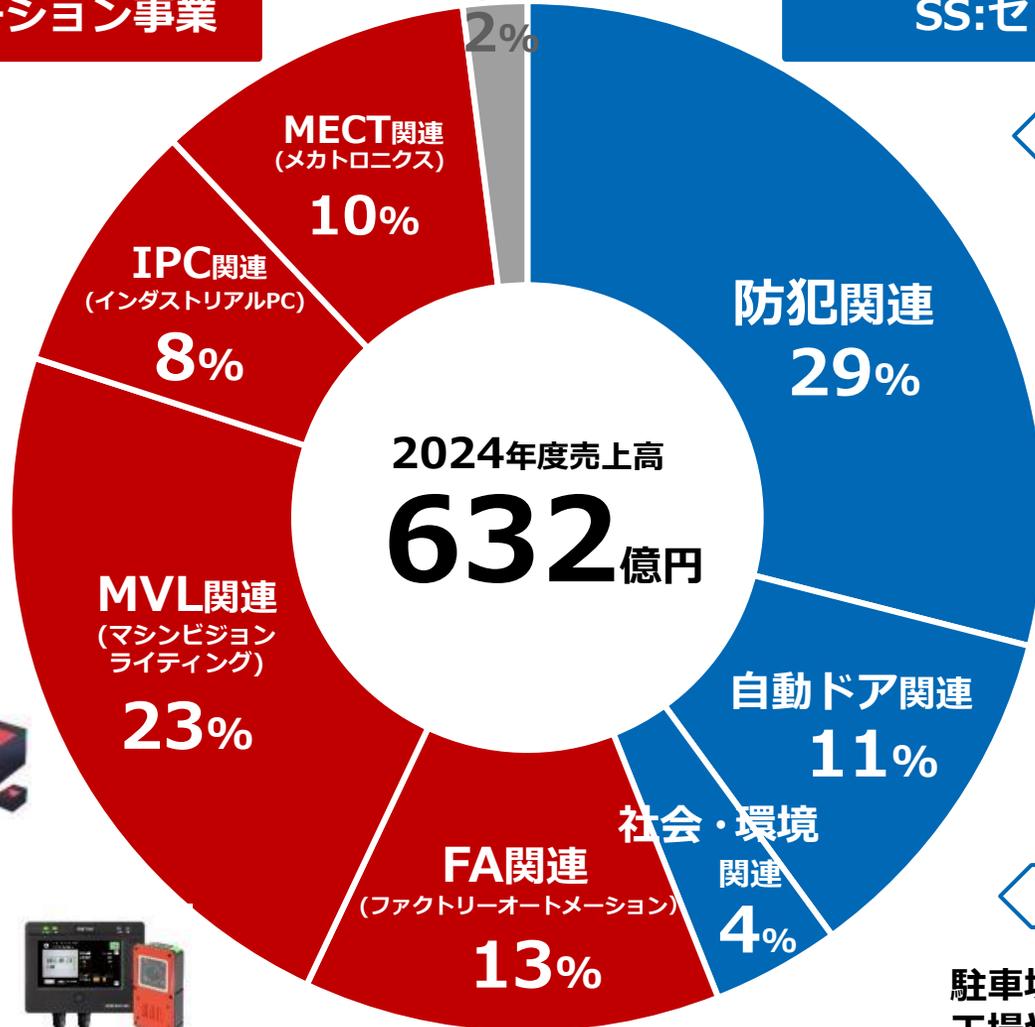
MVL関連 (マシンビジョンライティング)

工場の検査工程で検査の品質向上に
役立つ照明を提供

FA関連

工場の生産工程で自動化・省人化に
役立つセンサーを提供

EMS/その他



SS:センシングソリューション事業

防犯関連

住宅、事業所、大型重要施設向けの
屋外侵入検知センサーを提供



自動ドア関連

自動ドア用センサー、工場や倉庫の
シャッター用センサーを提供

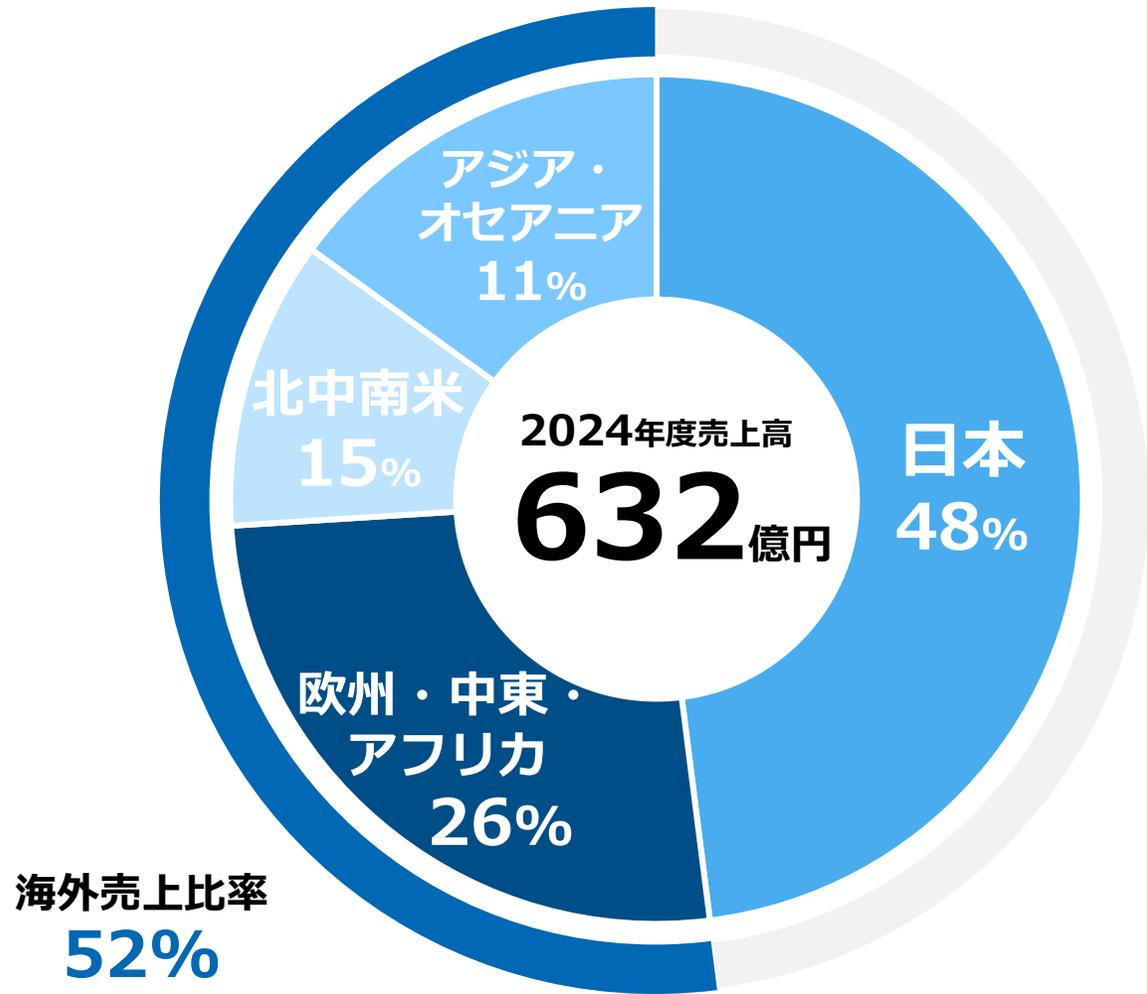


社会・環境関連

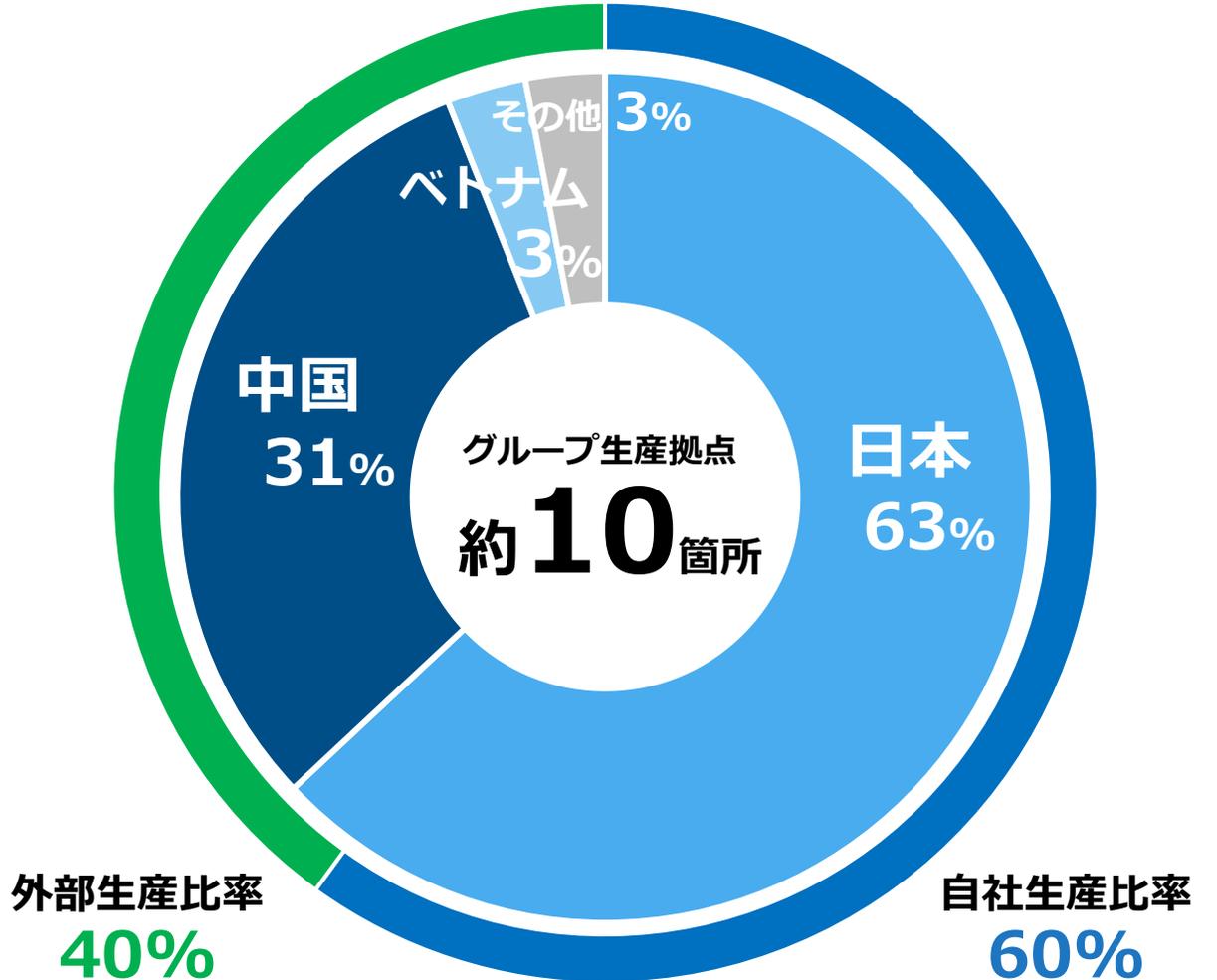
駐車場向けの車両検知センサーや
工場や浄水場向けの
水質計測センサーを提供



会社概要_地域別売上構成比、生産拠点別構成比



地域別売上構成比



生産拠点地域別構成比

会社概要_マーケットシェア

「グローバルニッチNo.1」

防犯

グローバルシェア

40%

屋外用侵入検知センサー



大型重要施設向け
レーザースキャンセンサー



カメラ付きセンサー

自動ドア

グローバルシェア

30%

自動ドア用センサー



赤外線センサー



シャッター用センサー



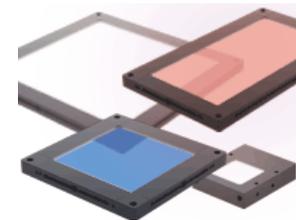
タッチスイッチ

画像処理用照明

グローバルシェア

30%

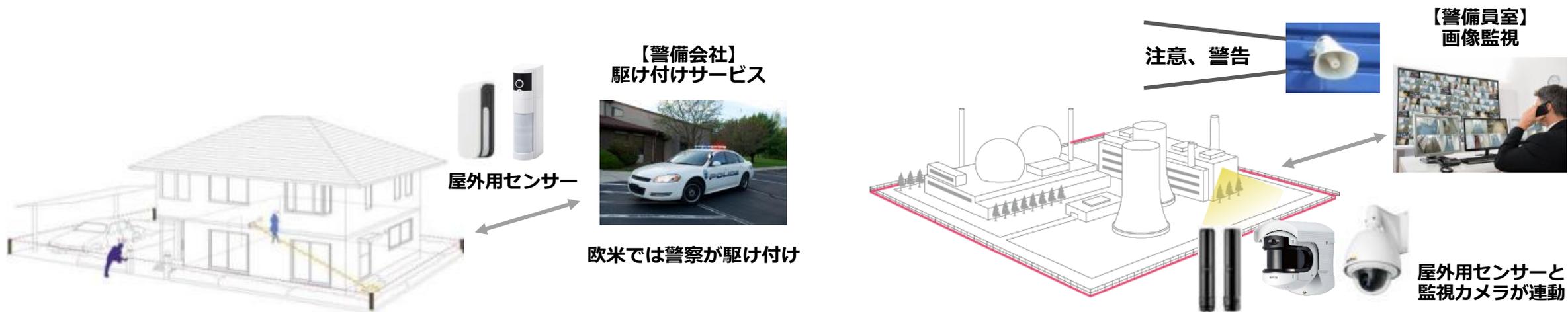
画像検査用LED照明



各種LED照明

事業概要_SS事業（防犯関連）防犯センサー

屋外用侵入検知センサーで世界トップシェア



レジデンシャル（住宅）向け



高級住宅（海外）

コマーシャル（事業所・倉庫等）向け



事業所

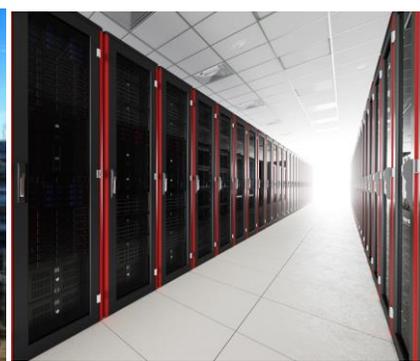


倉庫

ハイセキュリティ（大型重要施設）向け



発電所・石油インフラ施設



データセンター

事業概要_SS事業（自動ドア関連）自動ドアセンサー

国内シェア50%以上、海外シェア20%

1980年 世界初 遠赤外線式自動ドアセンサーを開発



マットスイッチ（床）



自動ドア用センサー1号機

空調エネルギーロスを減らし、CO2削減に貢献



無駄開きを抑止し、
冷気や暖気の漏れを防ぐ



ショッピングセンター



コンビニ向けシェア60%以上



病院



工場、倉庫用シャッター

事業概要_SS事業（社会・環境関連） 車両検知センサー、水質計測センサー

車両検知センサー：環境負荷の少ない車両検知センサーで、駐車場や交通インフラの快適性を実現

【在車管理】 埋設工事が不要に。

ループコイル → **ポール設置型 車両検知センサー**

地面をカットして埋設
再使用不可

施工・メンテナンスが容易
移設・再使用可能

【ゲート開閉】

住宅、事業所等向け ゲート自動開閉用途

埋設工事不要で
施工・メンテナンスが容易



水質計測センサー：水質測定からデータ管理まで自動化し、水質監視と予防保全の効率化を実現



センサー ゲートウェイ データマネージメントサービス



事業概要_IA事業 (FA関連) 工場用センサー

ファクトリーオートメーション

工場の生産工程で自動化、省人化に役立つセンサーを提供

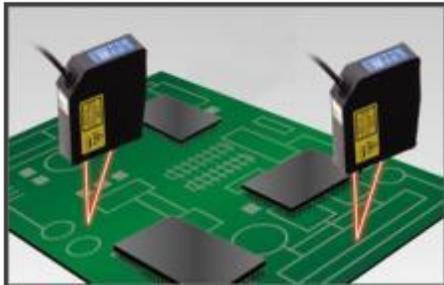
変位センサー



半導体、電気・電子部品業界向け



スマートフォンのフレームの高さ測定



基板の傾き、ソリ測定

画像センサー



三品業界向け (食品、医薬品、化粧品)



弁当・惣菜の食品表示ラベル検査

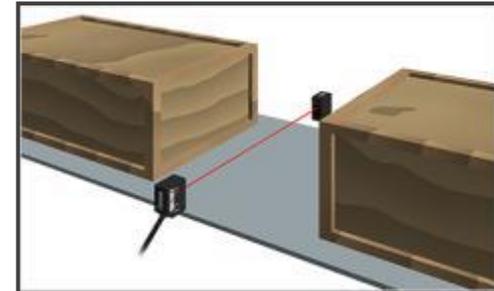


牛乳の賞味期限印字検査

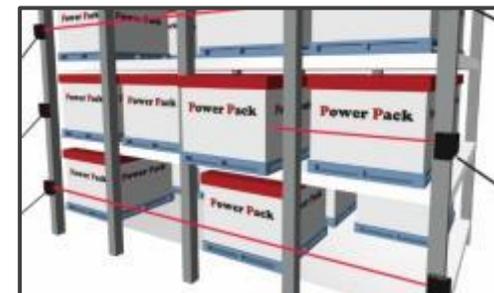
光電センサー



物流業界向け



段ボールや木箱の通過検出



自動倉庫ではみ出し検出

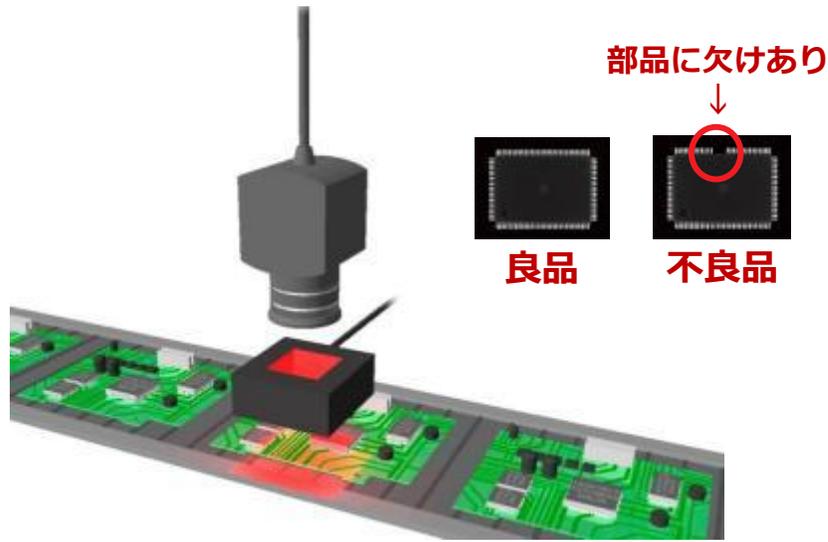
事業概要_IA事業 (MVL関連) 画像検査用LED照明

マシンビジョンライティング

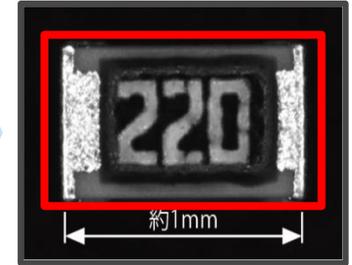
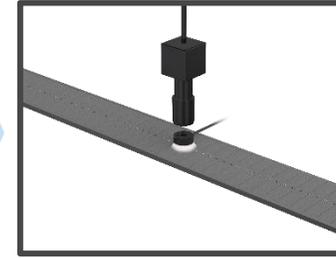
CCS は1993年設立の、LEDを活用した検査用照明メーカー

検査用照明とは？ ※

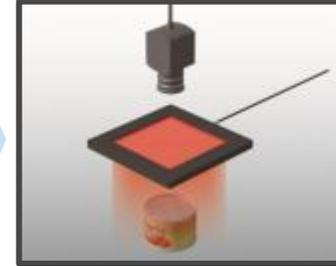
工場で何かを生産する場合は、**各工程ごとに必ず「検査」のプロセスがあり**、検査対象物を照明・電源、レンズ・カメラを使って撮像し、画像を基に「良品 or 不良品」の判定を行います。



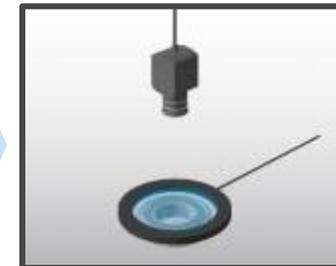
プリント基板の実装部品欠陥検査



小型チップ部品の文字・形状観察撮像



缶詰表面の汚れ撮像



ベアリングの刻印文字撮像

※ 画像処理用の照明として利用されることから、マシンビジョン照明と言います。

事業概要_IA事業 (IPC関連) 産業用コンピュータ

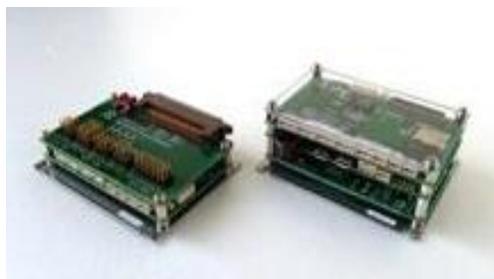
インダストリアルPC

耐環境性、耐ノイズなどの信頼性の高い製品を提供

ハードウェア・ソフトウェアの豊富な開発ノウハウによる長期的な技術サポートが強み

産業用組み込みボード

半導体製造装置や医療・通信などの
コンピュータ・プラットフォームを提供



生産・社会インフラシステム

生産現場や社会インフラの
課題を解決するシステムを提供



先進計測・制御システム

ロボットなど、計測・制御用の
先進システム製品を提供



事業概要_IA事業 (MECT関連) 自動化機械装置

メカトロニクス

自動化装置

高度なメカトロ技術を保有

- ✓ 高速・高精度充填技術
- ✓ 高速搬送技術 等

→ 厳しい要求水準に対応した高品質



設立以来、二次電池製造装置等の自動化装置の開発を手掛ける

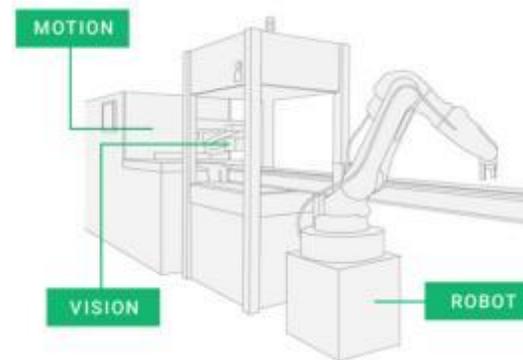
画像処理検査／計測装置

モノを動かす
「Motion技術」

×

モノを視る
「Vision技術」

→ 最適なソリューションを提供



お客様の課題に合わせてカメラ、LED照明、各種測定機等を組み合わせた画像処理検査システムを構築

ESGの取り組み

当社はサステナビリティ基本方針の元、ESG課題に積極的に対応し企業価値の向上に努めています。ESGレポートを作成しておりますのでぜひご覧ください（[レポートはこちら](#)）。



Environment (環境)

環境課題への取り組み

【TCFD提言への賛同】

「2030年までに2019年度比CO2排出量を30%以上削減する」という中長期目標を設定し、気候変動対応プロジェクトを中心にTCFDの枠組みに沿った対応を推進

【製品・ソリューションでCO2削減に貢献】

環境配慮型の製品・ソリューションの普及拡大に取り組む

自動ドアセンサー



無駄な開閉を防止することにより空調効率を改善

画像検査用LED照明



明るさを自動管理するフィードバック制御により省エネを実現



Social (社会)

社会課題への取り組み

「自己実現No.1」の会社を目指し、社員の成長のサポートや能力発揮のための人材育成と職場環境の整備を推進。



健康意識の向上や生活習慣の改善、メンタルヘルス対策の強化の取り組みにより、優良な健康経営に取り組む企業として、オプテックス㈱、オプテックス・エフイー㈱の2社が「健康経営優良法人」に認定。



Governance (ガバナンス)

企業統治への取り組み

当社の取締役会は、企業経営・経営管理、技術開発、生産、営業販売、海外での勤務経験、会計の専門性等をそれぞれ有効に活用する取締役5名（男性4名、女性1名）と、豊富な監査経験、税理士、公認会計士、弁護士の資格を有する等、高い見識と知見を有する監査等委員である取締役3名（男性2名、女性1名）で構成されています。

(2024年3月27日現在)



取締役会での活発な議論を通じた意思決定で戦略の質を高め、更なる企業価値の向上を実現。

<https://www.optexgroup.co.jp/>